



つるがしま里山サポートクラブ 通信

第13号
2023. 10. 01
発行
小澤邦彦
編集
杉山行江

つるがしま里山サポートクラブの未来

代表理事 小澤邦彦

2002年に里山の整備活動に参加し、2003年に任意団体を設立し早くも20年目、あっという間でもありました。2005年にNPOを設立してから、今期で20年を迎えることとなります。振り返ってみますと、当時の会員は、ほとんどが60歳代、70歳代は数人でした。この20年で、会員の平均年齢は73歳前後と高齢化が加速しています。会員の高齢化や世代継承のための仕組み作りが求められていると思います。

つるがしま里山クラブは設立以来、里山を次の世代に受け継ぐことを目指し、荒廃してしまう里山の整備や里山の自然を子ども達が体験するため、様々な活動に取り組んで来ました。当初、市民の森の整備を中心に、学童クラブの子ども達との活動が始まりでした。この経過の中で、鶴中や藤小、栄小などの子ども達の自然体験活動として広がり、いまでは、色々な個性を持つ子ども達のグループとの自然体験活動を積み重ねています。また、この活動においては、市内のさまざまな市民活動団体や自治会、支え合い協議会の皆さんとの連携活動を心がけ、地域の共有財産でもある市民の森の体験や整備に協力してきました。市民の森は身近な市民の共同利用地として、森を維持してきました。鶴ヶ島の市民の森は、住宅地に隣接し、散歩がてら森の自然を体験でき、いくつかの市民の森では、小川が流れ、水辺遊びも楽しめる貴重な自然空間ともなっています。子ども達が元気になる自然に恵まれ、交通条件も恵まれた大都市近郊都市は、数少ないと思います。このような市内の里山を残していくためには、市民の皆さんの理解と支援が不可欠です。今後、各種の都市整備や宅地開発が進展するでしょうが、これらの開発にあわせて、より良い里山や水辺の整備・保全策が必要と考えます。鶴ヶ島の身近に貴重な里山と水辺を守り続けるためにも、市民・企業・行政の連携により、共に取り組んでいくことが大切と考えています。「森の元気、心の元気」をモットーに、市民の皆様と共に活動を続けていきたいと思っています。今後とも、よろしくお願ひします。

医は食から、食は農から

石黒 京子

昨年12月に入会した石黒京子と申します。まず入会することになった大きな理由をお伝えします。映画「杜人」の自主上映会を里山サポートの皆さんと一緒にやりたいと思ったからです。

里山サポートの活動は鶴ヶ島の環境保全にとってとても大切なものだという事は以前より承知しておりましたし、私自身もとても興味を持っていました。だからこそこの映画の上映を通して市民の皆さんに、里山サポートの活動がどんなに大切で必要なものであるかということを知ってもらい広く感じてもらえる良い機会になると思いました。

何故かという、私のライフワークという日々の生活から感じ取ったといえるものがあるので、自己紹介を兼ねて少しお話しさせていただきます。

我が家が鶴ヶ島に越してきて30年になります。長男が4歳、長女が生後3ヶ月の時でした。二人の子育てはここ鶴ヶ島でスタートしました。私には、子どもを育てる時に強く意識していたものがあります。それは熊本の医師竹熊宜孝先生が提唱なさっていた「医は食から、食は農から」というものでした。

福岡が実家の私は20代の頃は福岡に住んでいました。そのころ竹熊先生との出会いがあり、東京に転勤するまでの4~5年の間、数多くの講座や研修に参加して、たくさんのお話を学ぶことができました。それらの教えは、私の生活の基盤とになっていきました。

子どもが出来てからは、より真剣に生活に取り入れていくこととなります。

「医と食」については、試行錯誤しながら、迷いながらではありますが、私なりに家族の健康を支え、守ってゆく土台を作ることができたと思っています。しかし「農」についてはどんどん後回しになってしまい、やっと2~3年前より畑や田んぼと関わる事が出来るようになりました。(2頁下段へ続く)

7月～9月の主な活動

今年の夏は右表のとおり行事が山盛りで忙しかった。

4年振りにセットを作成し、流しソーメンを藤小学校3年校外学習として、また鶴ヶ島なかよしっこクラブには全面協力した。

そのほか4カ所に貸し出しました。

飯盛川のホタル復活活動は地味だが熱心な会員により餌のカワナ採取やアメリカザリガニの駆除を進めています。

運動公園内の太田ヶ谷の沼は以前より地元の桜の会が桜を管理しています。この桜は樹齢が進んで世代交代の時期が迫っている

のでソメイヨシノ苗木20本を植樹しました。当日は市長をはじめ桜の会、太田ヶ谷の森グランドワーク加入団体の会員が参加しました。



恒例のボランティア体験会は五味ヶ谷の森、高倉の森、藤金の森で実施しました。回によって大学生であったり、中学生であったりですが代表が森の大切さ、森での体験、森の再生活動の大切さをじっくり話し、森を一回り案内してから草刈りなどの作業を体験して貰いました。

西中学校の地域福祉教育の中から始まった福祉ベンチ設置の活動への協力は材木の伐採、切断、運搬、製作、塗装と作業は多岐に渡ります。森の恵みを頂いて地域社会への貢献も当クラブの大きな使命です。



ナラ枯れという言葉聞いたことがあると思います。鶴ヶ島の樹木もだいたい被害に遭っています。どのように対処するのが良いのか樹木医の知恵を借りて検討を始めています。

今年の会員親睦のBBQは会員農園の金木犀の並木道の木陰で、お墓をどうしているか、夫々の思いの花が咲き乱れました。

7月～9月 活動実施

7/01(土)ソーメン流しセットの製作

7/03(月)藤小学校自然体験学習

7/05(水)飯盛川にてアメリカザリガニ駆除

7/07(金)運動公園にソメイヨシノ苗木植樹

7/10(月)藤小学校自然体験学習流しソーメン

7/22(土)ボランティア体験会 in 五味ヶ谷の森

7/22-8/5 プラカ絵画展開催

7/29(土)毛呂山大類の森グループの協力

8/05(木)NPO カラーレ竹細工の指導

8/12(土)ボランティア体験会 in 高倉の森

8/14(月)なかよしっこクラブ 流しソーメン協力

8/28(月)福祉ベンチ用の木材運搬

8/30(水)会員親睦BBQ

9/02(土)里山体験会 in 藤金の森

9/13(水)逆木倉庫の清掃整備

9/20(水)福祉ベンチの製作

9/30(土)樹木医指導で森の整備計画検討

10月～12月 活動計画

10/15(日)大谷川クリーン大作戦

10/28(土)五味ヶ谷市民の森整備

11/04(土)ニッサイグループ協力

11/11(土)五味ヶ谷市民の森里山体験会

11/18(土)毛呂山グループ協力

11/26(日)運動公園清掃と焼芋・芋煮の会

12/06(水)五味ヶ谷指紋の森整備

12/23(土)一二三富の会門松教室協力

12/24(日)家族で楽しむ門松教室

スケジュールは雨などで変更が有りますので、当クラブHPで確認下さい。

(前頁より)

島や田んぼの活動からは、今迄にない素敵な感動や感謝そしてたくさんの新しい出会いが生まれています。その一つに映画「杜人」もありました。

日本のみならず地球の環境について、あらゆる面から考え直すことの重要性を自然に感じることでできる大切な映画だと感じました。そして上映会はここ鶴ヶ島で森林保全や環境整備、子どもたちとの触れ合いも大切に活動されている里山サポートの方達と一緒に上映会することがBESTだと思ったのです。

市民の皆さんに里山サポートの活動をより知ってもらい、環境を守ることが、子どもたちの安心安全な未来を作るために繋がってゆくということ、もう待ったなしでやらねばならないところまで来ているということを伝えるために、大切な映画だと思っています。

安全で安心な未来を次の世代に繋いでゆくこと、明るい希望に溢れた未来にしてゆくための活動が、私たち世代の大きな使命ではないでしょうか？

「医についても、食についても」どれも同じです。問題山積です。

一人では微力だけど、自分にできることを少しずつ、まわりの方たちと力を合わせて新しい繋がり、ウェーブをここ鶴ヶ島に起こしてゆけたらいいなあとも考えています。

まず楽しく、愉快的仲間たちとやって行けるといいなあと思っています。 よろしくお願ひします。

流しソーメン

理事 吉井 優

里山クラブが、流しソーメンのイベントに係わったのは、2013年に広域おやこ劇場ひき北いるま主催の東市民センター七夕イベントに、竹の切り出し、流しソーメン、水鉄砲づくりの指導員として協力したのが記録に残っています。流しソーメンは、市民の森の竹林から孟宗竹を切り出し、半分に割って樋を作ります。節抜きを子供たちに経験させるとともに、参加者全員が竹のお椀を作り、それでソーメンをいただくシステムが好評でした。なお、作成した流しソーメンセットは、毎年あゆみ福祉会など地域の各種市民団体に貸し出し、感謝されています。

前年に評判の良かった流しソーメンを経験したため、2014年から、里山クラブ主催で流しソーメンイベントを行いました。雨天で1日延期したところ、十数名の参加者しか集まらず、残念な結果となりました。2015年からは、参加者60名くらいだったが、2017年には、参加者189名となりました。事前予約ではなく、希望者を全て受け入れる方針だったが、想定参加者の倍となったため、2組にわけ、1組は、市民の森で竹細工を行いながら待機してもらうということで対応をしました。

2018年は、受付を容易にするため、事前予約としましたが、187名受付、2019年は、172名受付ました。2020年からは、コロナ騒動の影響をうけ、中止していました。

2023年にコロナ騒動が収まり、藤小学校と、野外授業の打ち合わせ5月に行いました。その中で、流しソーメンが提案され、実現となりました。同時期にお茶の水女子大付属小学校から、流しソーメン体験に協力依頼がきました。7月1日にお茶大付属小の教師とともに、樋と脚を作り、東京で使ってもらいました。週明けに返却してもらった樋と脚で、7月10日に藤小学校で流しソーメン体験を実行しました。父兄の力も借りて大好評の体験会でした。その後、鶴ヶ島なかよしっ子クラブには全面協力、鶴ヶ島みどり保育園、あゆみ福祉会、カローレなかよしクラブに貸し出し、感謝されました。



来年は、流しソーメン竹道具一式を一緒に作る団体を募集し、贈呈する予定です。

福祉ベンチの製作舞台裏

小嶋 道弘

昨年からは開始された市・社協が支援し、西中学校の地域福祉教育の中で福祉ベンチについて、生徒が検討するという授業に参加しました。今年も同様な社会福祉教育を継続することと、当クラブは協力することとしました。

福祉ベンチプロジェクトとは、高齢者や障害者の方々が市内を散歩したり、バス待ち時間にベンチがあればいいと思う場所にベンチを設置していこうという運動です。

今年当クラブに市健康長寿課を通して「鶴ヶ島ほっこり村診療所」から敷地内に設置して欲しいとの要請がありました。そこで、8月初旬に小澤代表が施設を訪問し、市や施設側の希望を聞き、構造等を協議した結果、「背もたれ付きベンチ」を2基製作寄贈することにしました。

材料となる木材は8/28(月)、五味ヶ谷の市民の森内の檜樹木を伐採、切断しました。猛暑の中、参加者は5名、クラブの軽トラに載せて藤金シルバー倉庫まで輸送し保管しました。当日は気温が高かったこと、加えて集まった5人の平均年齢が79.2歳であった等で、作業はそこまでとして、次回9/20(水)に皮剥き、製材作業、ベンチ加工制作、塗装までを行う予定です。健康と労働の楽しみ、人の和そして幾らか地域社会への貢献と、参加者の様々の思いを集めてベンチを組み立てます。



巷では、日本のITデジタル化が遅れているとの指摘があり、業界でも力を入れていく課題として取り組みが始まっていると思われます。そんな折、日本NPOセンターからデジタル基盤強化をしませんかのプログラムの募集があり、当クラブが応募したところ全国で10団体という狭き門に見事採択が決定しました。費用は参加費のみで先端のデジタル化が実現しそうです。

さて、当クラブで遅れているデジタル化はなにか。アナログ的なチラシ配布によるイベントの広報や、スマホに対応できていないホームページ（HP）、会員間の連絡でのメールアドレス管理の不備、会員情報であるデータ・写真が共有化されていない。また、イベントの参加者のフォロワーやフィードバックができるSNSが活用できていないことが挙げられます。

この辺りについて、スマホを使ってSNSを利用した情報が双方向でできるようにHPを改善していくようにしたい。いわゆるfacebook、twitter等を使いこなして広く広報をしていきたい。HPもそれに見合った画面に改善し、当クラブのボランティア活動に気軽に参加できる仕組みを作っていく。HPを訪れた人が我々の活動に興味を持ち、参加したくなるような仕組みにできればいいなと思います。

当クラブをよく理解してもらうためのキャッチフレーズとして、

森を創り、木竹を利用し、林で遊ぶ。(Grow, Use, & Play) はいかがでしょう。

○「森を創る」には生態系や環境の調査、植樹、桜、間伐、ホタル育成、清掃などが含まれ、

○「木竹の利用」には竹細工、門松、流しソーメン、福祉ベンチ、いかだ材の支援など。

○「林で遊ぶ」にはツリーイング、綱渡り、魚とり、野点、学習支援、癒しの場の提供等です。

このような一連の活動が、SDGsの(3)健康と福祉、(4)教育、(6)安全な水、(13)気候変動、(15)陸の豊かさ等につながっていくのではないのでしょうか。

さて、専門家とのZOOM会議を行い、問題解決に向けての指導・助言を受けている中で、会員間のデータの共有化については、里山専用のクラウドサーバーを利用してデータを保管し共有していく。会員間のメール送受信についてはメールリストの管理方法の見直し、更にHPについてはスマホで各自が手軽に情報を把握できるようフレキシブルな画面に改良することにしていく。また、twitter、facebookのQRコードを掲示することにより、情報の把握、発信が容易になり、会員増員の要になるかもしれません。即ち、参加者の活動参加の写真や情報が発信され、友達が友達を呼び、フォロワーが増えることで当クラブの活動が理解されるとともに参加意欲が増すことに繋がる気がします。仲間を増やすことは当クラブの存在が社会に貢献し、環境を変える力になっていくことです。正会員、賛助会員、さらに里山応援団へと発展していくことが期待されます。

また、HPを改良するに当たり、現HPの内容を継承しつつ、フレキシブルに、かつ参加情報がランダムに表示され、知りたい情報が素早くみつかるような画面、構造にしていく。内容も、更に充実したいので会員各位のアイデアや動画、資料を取り込んでいくように考えています。

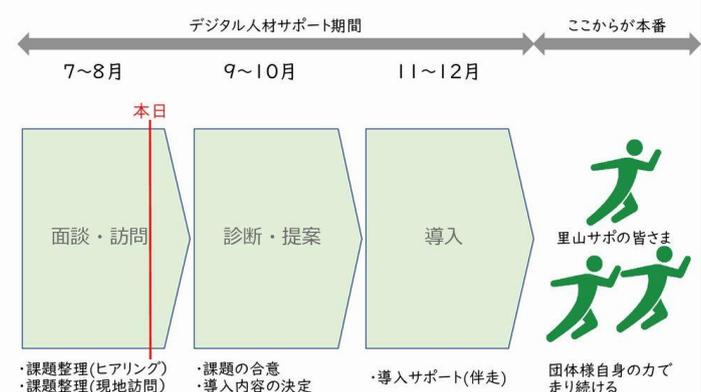
各自が保存している傑作写真や作成された動画もぜひご提供ください。

また、現HPに、twitterとfacebookのQRコードを追加して掲示してみましたので、お友達に読み込みの紹介をされ、投稿をお願いできればと思います。会員含め皆様のフォローと投稿を公開し情報を共有したいと思います。

これがSDGsに繋がり、次世代の持続可能な開発目標となる活動になるようにしたいと考えています。

今後の進め方

団体様が、自分たちで継続できる対策をしっかりと考えていきたいと思えます。



編集後記

第1号を発行してあっという間に3年が過ぎた。あっという間だ。何とか続いたのは執筆者と読者のおかげと感謝しています。私もあっという間に八十歳になった。何時までこの仕事を続けられるか。会報の意義を考え、後進に託すための道駈らしをもう少ししたい。 : <http://www.satoyamasupport.com/>